

令和6年度福井県教員育成協議会 概要

令和6年12月24日（火）

13：30～14：30

オンライン会議

1 開会

2 委員紹介

3 議事

(1) 福井県教員育成指標の活用について

- ・ **資料1**に係る事務局説明

〈主な意見や質問〉

- ・ (委員) 国の研修システム「Plant」には、校外研修だけでなく校内研修の履歴も記録するのか。
- ・ (事務局) 県教育委員会が主催する校外研修は履歴を残している。その中の一部は関係する指標と紐づいている。校内研修については、先生方が記録を残したいと思う履歴を先生方自身で入力して残すことができる。ただし、指標と紐づいているわけではない。システム自体ができたばかりなので、今後機能が変わっていく可能性はある。

(2) 令和7年度以降の指標について

- ・ **資料2～資料4**に係る事務局説明

〈主な意見や質問〉

- ・ (委員) 教員採用においても指標を重要視しているか。
- ・ (事務局) 採用試験の説明会等で福井が求める教師像について伝え、採用前の段階から大切なものとして捉えている。
- ・ (委員) 協働を重要視しているという点で、非常に素晴らしいものになっている。福井県の指標として協働を強調することは、他の都道府県にとっても大きな提案になる。
- ・ (委員) 働き方改革で業務削減を考える際、教師の学ぶ時間も削減してしまうケースがある。国の答申でも“教師の学びを核にした”働き方改革ということが提案されている。管理職の指標の「働き方改革の推進」の部分に、“教師の学びを核にした”という要素を表せるとよい。

- (委員) 丁寧でありながら全体がスリム化され大変見やすく、教員にとってイメージが持ちやすい指標となっている。
- (委員) 定年が65歳まで延長されていくことや役職定年といったことを踏まえ、指標の中に示すかどうかは別として、そういった層の教員の視点も重要視していただきたい。
- (委員) 教員の年齢構成が変わってきていることもあり、誰にどのような仕事を任せるか管理職が考える上で、これまでと異なる部分が出てきている。ステージ1～3と進んでいくイメージだとは思いますが、「職場の中でどういった立場にあるのか」という視点から、皆が指標全体を意識し活用していけるとよい。
- (委員) 子どもたちが生き生きと健やかに成長できる環境をつくるには、先生方が生き生きと働ける職場環境が大切である。先生方がやりがいや達成感に繋がる要素を、管理職の指標や指標の補足説明文書の中で表現できるとよい。